

星辰

No.94
長野市大字南長野
幅下692の2
TEL.026-217-5858
県政だより
発行責任者
県民クラブ・公明大北
宮澤敏文
E-Mail:kenmindub
@lily.ocn.ne.jp
星辰とは、変わるこ
このないもの、理想

宮澤敏文県議 アフターコロナの 長野県像を熱く提言

宮澤県議は十一月県議会のトップで登壇
アフターコロナの諸課題の解決と将来の
人口減少の弊害と先取り政策を多く提言
した。



昨年の国勢調査の結果、日本は世界で一番若者が少なく、高齢者が多い国（比率）に

には、早い段階から、若い人達が、地域の企業や産業について意識することが必要である。

③長野県のものづくり産業を担う「ひと」を育てる教育が、初等、中等教育で行われており、現状とその成果をどのように分析しているか。また、高校教育の中で、「地域と共に歩むことの大切さ」をどのように教えているのか伺う。

答弁者 教育長

小中学校を対象に、プログラミングを組み合わせて新たなアイデアを生み出し、様々なものづくりに挑むイベントを県内4ブロックで開催している。高校では、地域の企業と連携・協働した取組を行い、実践的なものづくりの技術や先端技術の基礎・基本を学ぶとともに、職業人としての意識の涵養を図っている。池田工業高校では、池田版デュアルシステムの中で、2年間にわたって、企業の高度な技術と知識を学んだ。

④産業振興を最重要課題とする本県において、人材の育成と確保の観点から、企業のニーズを取り入れ、企業と高校をつなぐ「企業出身者のコーディネーター」制度の導入が必要と考えるが、見解を伺う。

答弁者 知事

そういう観点で、池田工業高校の事例であったり、県としてモデル的に行った取組もある中で、もう一回検証して、企業と高校をつなぐ具体的な連携のあり方を考えていきたいと思う。

⑤長野県産業立地ガイド誌の中で、地域振興局こと的高等教育機関一覧が掲載されているが、北信地域振興局・北アルプス地域振興局については記載がない。教育委員会の準備している統廃合案では、その中では専門学校もなくなろうとしている。「地域で学び地域で働く」を掲げる県政として、すべての地域での郷学郷就が課題だと考えるが、見解を伺う。

答弁者 知事

人口構造を見ますとどうしても二十歳前後の人口が、長野県は少なくなっているという状況

です。できるだけ長野県で学び、長野県で働ける、そうした環境を作る。郷学郷就をキーワードに取り組みを進めている。宮澤県議のご質問にあったように、もう少し身近な地域での郷学郷就ということもじっくり考えるべきである。一人一人の若者、それぞれの地域を中心とした視点も大切にしながら、若い世代が学びやすい、働きやすい環境づくり、これは全県を視野に入れて取り組んでいきたい。

⑥高校再編について、今年度中には統廃合案を提案すると聞いているが、仮に統廃合するとした場合に、決定後、何年後に開校する予定で提案するか伺う。

答弁者 教育長

再編計画の決定から開校まで、およそ7年から8年程度は必要である。

2 砂防事業について

①山岳県である本県の砂防事業の功績について、どのように評価しているか伺う。

答弁者 知事

「はじめに砂防ありき」という言葉がありますが、地域の安心・安全を守る砂防施設の整備によって、県民の皆様の安心したくらしが成り立っていると考えています。

②小谷村稗田山に、例えば国が実施している事業の公開や観光対策を行い、砂防ミュージアムのような施設を建設する等して、自然の猛威と砂防事業の重要性を伝え、学び場所を作るべきと考えるがいかがか。

答弁者 建設部長

日本三大崩れである稗田山やその周辺砂防施設を通じて、自然の猛威や砂防事業を学ぶことは、県民の防災意識を向上させるために重要と認識している。稗田山の観光活用やPRについて、小谷村や国と連携し、村を事務局とする協議会を設置して、今年度より、具体的な方策の検討を始めた。県としても、当協議会を積極的にけん引し、引き続き、観光にも資するように、創意工夫を図っていく。

1 地域振興と人材育成について

①長野県が多く抱える中山間地では、少子化や過疎指定地域の増加といった課題があり、特に財政力の弱い多くの基礎自治体では、過疎防止策の実施や上下

水道・公共交通網の維持が難しくなっている。様々な変化が予想されるアフターコロナ時代において、長野県の中山間地はどのように変化すると分析しているか伺う。

答弁者 知事

都市部への人口流出、出生数

の減少等が進行して、地域社会あるいは産業分野の担い手不足による活力の低下等、現在各地域で直面している課題が一層深刻化することが懸念される。

②製造業を繁栄させるには、時間をかけて蓄積した技術の継承と、地元で就職できる循環をつくる必要があるが、どのような取組が必要であるか認識を伺う。

答弁者 阿部知事

製造業を含む様々な技術継承



山小屋等山岳関係者の厳しい状況を訴える。務台副大臣、国関係課長へ宮澤長野県議会山岳環境保全議連会長と県観光・環境部各課長（環境副大臣室）

3 地域高規格道路 松本系魚川連絡道路について

①異常気象による河川災害が多発している時期に、将来的に重要物流道路となり得るこの地域高規格道路が河川の護岸を使用するためには、強靱な整備が必要と考えるが、現状の堤防道路をどう改修するか伺う。

答弁者 建設部長

現道活用区間の道路整備は、治水上の安全を考慮し河川法の基準に則ったうえで、災害に強い強靱な道路を整備していく。

②県道上生坂松川停車場線との交差部分は、当該地域の主たるインターの出入口であり、地元住民は交通事故の多発を心配し、どのように改修するか関心が集まっている。今後の整備計画と完成後の姿について伺う。

答弁者 建設部長

病院や駅等が近いうえ周辺地域の利用者が多いことから、アクセス性の向上や治水安全上の観点に加え、利便性に充分配慮し、概略設計を進めているところである。地域高規格道路としての機能を踏まえた検討を進める。整備にあたっては、国の補助金を活用することにより、整備が早急に進むよう取り組む。

③小谷村塩水地域は、地域高規格の調査区間に入っており、今後地域高規格に対応する道路計画を発表するとされているが、その計画の進捗状況について伺う。

答弁者 建設部長

本年度、道路概略設計に着手した。豪雪地域であることを十

分に考慮したうえで、改良計画の検討を進める。
④小谷道路に連絡する外沢トンネルは、地域高規格道路の基準にそぐわないと考えており新たなトンネル建設の必要性を感じているが、外沢トンネルの今後の方針について伺う。

備方法について検討を進めていく。

答弁者 建設部長

高規格道路としての構造を満たしていない。改良の必要性を認識している。トンネル拡幅の技術的難易度や交通管理の点から、バイパス計画も視野に入れ、整備方法について検討を進めていく。

4 農業問題について

①本県の中山間地域の農地を維持する取組を行うべきと考えるが、取組への決意を伺う。また、米消費の低迷、新型コロナウイルスの影響により、米単作農家の生活が苦しくなっているという現状があるが、今後稲作農家に対してどのような対策を行っていくか伺う。

答弁者 農政部長

地域をけん引するリーダーの存在が不可欠であるため、市町村や農業団体と連携しながら、リーダーの育成を図ることに併せ、半農半勤などの農ある暮らしへの支援を通じ、中山間地域の農地を守っていく。稲作農家に対しては、需要が見込める園芸品目を導入し、高収益作物の導入による複合化を進めることも重要である。

②本県の園芸特産分野の振興のために、希望者が多い、県単の信州農業生産力強化対策事業の増額を含め、生産者・農業団体が期待する本県の円米政策の拡充を図るか伺う。

答弁者 知事

「信州農業生産力強化対策事業」については、現地、地元也希望も十分伺いながら来年度も必要な予算の確保に努めていきたい。現場のニーズに答えられるメニューの見直しも行い、事業の充実を図っていききたい。取組を総合的に進める中で、全国に誇れる園芸王国づくりに取り組んでいく。

5 商工会について

市町村商工会の職員給与は、5年ごとに実施される経済センサスの結果を算定基準に決定され、小規模事業者の経営支援事業費として各商工会に支払われているのが現状である。このような現状を打開するため、速やかに検討を開始すべきと考えるが、いかがか。

答弁者 知事

県の補助事業については、安心して経営支援に取り組みめるよう、小規模事業経営支援事業費補助金のあり方について、県ともしっかり検討していく。

大事なことだと思っが伺う。

答弁者 教育長

来年度には、県内の専門学校配置について一定の方向が定まる見込みであり、その確定した後に専門学校等の更なる学びの充実を図るため、産業教育審議会に諮問することを検討していきたい。

【再質問】

県や市町村において、若い世代の人口減少は深刻な問題である。県下の均衡ある発展、県内のどこに住んでも適正なサービスを享受できる生活の充実を考慮した、阿部県政の人口政策について伺う。

答弁者 知事

今年度中を中途に少子化対策に向けて、県と市町村がどういう取組みをするのか、そうした戦力を取りまとめた。地域を活性化させるためのつながり人口の増加にも全力を傾けていきたい。国家的な課題として国にも、市長会、町村会と連携して要請をしていきたい。

【再質問】

この際、7年間も開かれていない産業教育審議会を開催し、将来の本県の専門高校に求められる教育の在り方や構成等を再検討することが



今から100年前、地域の人達が貧しい中「教育がなにより大事」と浄財を集め開校した、池田工業高校、生徒の学ぶ心は継承される。（特別授業をする宮澤県議）

北アルプス山麓ニュース

★振興局と宮澤敏文農振協会長で北小谷杏平区の皆さんと荒廃棚田を再利用しての「クレソン栽培」。二年植栽し、10月から軽井沢プリンス、ホテル白馬に出荷した。

★「皆がITを利用できるように」と商工会北安曇支部が、ホテルなど小規模事業者にきめ細かい研修会を、日本アルプス国際学院と連携して始めた。令和4年からは「Go to トラベル」の精算が電子申請、電子精算となるための研修も日本アルプス国際学院で準備している。

★小谷村の稗田山は日本三大崩れ、作家幸田文さんも注目。「砂防事業と大地の厳しさ」を観光地へ向けての検討を始めた。6・10月には、宮澤県議、中村村長、北村議長や村姫川砂防、県砂防職員が富山県立山、静岡県大谷崩れを視察した。